

2009年 第9回 安全と美味しさを求めて  
(農)庄内協同ファーム生産者集会



主管 安心農産物生産委員会(事務局 事業管理部)  
日時 2009年3月17日(火) 開会午前10時  
場所 藤島 四季の里 "楽楽" 二階研修室

- 10:00 1. 開会  
2. 挨拶 代表理事  
3. 来賓のご紹介  
常総生活協同組合 とちぎよつ葉生活協同組合  
(大石光伸 専務理事) (出居慎市 専務理事 菊池俊雄 商品担当)

**第一部**

- 10:15 4. 「2008年度の活動報告と2009年度の活動計画」報告  
(1) 作付実績・作付計画 事業管理部  
(2) 認証の取り組み 有機JAS会議(生産行程管理責任者)  
生産履歴監査委員会  
(3) 生産・環境活動 安心農産物生産委員会  
各生産グループによる生産・環境活動の総括と計画  
活動報告  
生産者集会・有機認証のあゆみ10年 JAS有機会議  
業務現場で 農産加工部  
安心農産物生産委員会の取り組み

- 11:30 5. 来賓挨拶

12:15

- 昼 -

**第二部**

- 13:00 6. テーマ - 地域に広げる有機農業 -  
「埼玉県小川町での経験をとおして」  
講演 金子友子氏  
14:15 「消費者と産地をつなぐ地域生協の役割」  
講演 常総生活協同組合 大石光伸専務理事  
15:00 休憩  
15:15 意見交換  
16:30 7. 閉会

16:45~20:00 **交流懇親会** (組合員室)

## 農事組合法人 庄内協同ファーム環境方針

人類の営みは、有限である地球の未来へ影響を与え、壊し続けているが近代産業の中で、農業も自然破壊への一つの大きな要因であることを認識する。

私たちは農業本来の持つ、自然に融合する豊かさを大切にし、農産物の生産、加工、流通全般にわたり、環境負荷を出来る限りなくし、自然循環的資源を最大限活用し環境保全と人々の健康増進に資したいと考える。

さらに、未来産業としての農業を確立するためにも農業に対する環境法規制、自主基準、その他の要求などを遵守するだけでなく以下の諸努力を行う。

1. 化学肥料、化学農薬をはじめとする化学物質使用削減による土壌、水質、大気汚染の防止。
2. 環境負荷の少ない生産技術の習得や資材の使用。
3. エネルギー使用量の削減。
4. 廃棄物の削減、リサイクル。
5. 農地の生物多様性の保全。
6. 調達先や供給先の環境活動への展開協力。

また更に、組織の活動、製品及びサービスを定期的に監査し、見直しする事によって継続的改善に努める。

以上、農事組合法人 庄内協同ファーム全生産者に周知徹底するとともに、ここに公に声明する。

2000年3月10日

農事組合法人 庄内協同ファーム

## 農事組合法人 庄内協同ファーム 環境目的・目標

1. 水質汚濁による自然生態系への影響を少なくする。
    - ・浄化装置の水質測定等監視活動を維持、継続する。
  2. 有機栽培・無化学肥料栽培の面積を拡大する。
    - ・共同購入の有機資材の利用を拡大する。
  3. 化学農薬の使用を削減する。
  4. 大気汚染物質であるポリ塩化ビニールフィルムの使用全廃に向けて努力する。
    - ・農業資材の廃棄は当地域の指定された回収業者に搬入する。
  5. 燃料の無駄な消費をしない。
  6. 環境問題についての意識を高め、行動する。
    - ・講演会、学習会の開催と出荷先、消費者との交流会の参加及び開催をおこない環境活動に協力する。
    - ・環境問題について地域ぐるみの啓蒙、意識改革の高揚を目的とする。
- 上記の目的、目標を達成するために農事組合法人 庄内協同ファームの各部会及び各生産者グループは目的、目標、環境プログラムを作成し実施する。

改定 2006年3月14日

農事組合法人 庄内協同ファーム

## 生産振興方針

- 1 協同の力により自立した農業経営を確立する。
- 2 豊かな自然環境を大切にし、安全と美味しさを求めた生産活動行う。
- 3 農産物・加工品の適正な生産目標を掲げ生産性の向上と安定生産を目指す。

## 生産目的・目標

有機栽培の農法を確立する。

連作障害を防ぎ農産物の安定生産行う

作物別収量目標の設定をする。

土壌調査を実施し、適正な施肥設計に心掛ける。

有機資材の情報提供をする。

加工品の品質管理・衛生管理を徹底する。

2005年2月18日

農事組合法人 庄内協同ファーム

## (農)庄内協同ファーム 2008 年 環境目的・目標 総括

### 1. 水質汚濁による自然生態系への影響を少なくする。

- ・ 浄化装置の水質測定等監視活動を維持、継続する。

引き続き浄化槽の管理を委託して監視活動を継続する。

餅加工の処理水について能力を越える部分は下水道への接続を検討する

### 2. 有機栽培・無化学肥料栽培の面積を拡大する。

- ・ 共同購入の有機資材の利用を拡大する

全生産面積 13224.9a (1460.5a 増)のうち有機(転有・無無含む)栽培の面積は 5192.5a (39.3%)となり、324.9a 増加した。

無化学肥料栽培面積は、全体で 10893.8a となり、82.4%と拡大しているが、品目により技術面、コスト面等課題が残されている。

共同購入の有機資材等は地域への広がりもあり、前年全額比で 113%となっている。

### 3. 化学農薬の使用を削減する。

全生産面積に対する無農薬栽培は、7603.6a (57.5%)と 2087.7a 増加している。

稲の育苗期における無農薬・無化学肥料栽培は、全面積の取り組みがなされた。

### 4. 大気汚染物質であるポリ塩化ビニールフィルムの使用全廃に向けて努力する。

- ・ 農業資材の廃棄は当地域の指定された回収業者に搬入する。

ハウスビニールに一部使用が認められるので更新時に変更する。

農業資材の廃棄についてはほとんど JA 窓口をお願いし、個人で取り組まれている。

### 5. 燃料の無駄な消費をしない。

有機栽培を進めると作業面で燃料消費が多くなるが、作業用トラック機械はアイドリングストップに努めた。

ディーゼル車の使用で、植物由来廃油を使用した(一部)

### 6. 環境問題についての意識を高め、行動する。

- ・ 講演会、学習会の開催と出荷先、消費者との交流会への参加及び開催をおこない環境活動に協力する。

- ・ 環境問題について地域ぐるみの啓蒙、意識改革の高揚を目的とする。

JA・消費者・小・中・高・大学校・行政・研究機関、山形県・鶴岡市・三川町の各有機農業推進協議会が設立され、その参画があった。

庄内環境創造型農業研修会が開催され、後援・参加し環境活動の地域的広がりも持てた

各取引先の主催する部会や、学習会に組合員室の協力を得て積極的に参加した。

## (農)庄内協同ファーム 2008年 生産目的・目標 総括

### 1 有機栽培の農法を確立する。

有機栽培（稲作）農法ごとのポイントを農法担当者に聞き取り技術の集積をはかった。（別紙資料＝有機栽培農法の安定生産ポイント）  
種子脱芒選別機の利用を計り、有機圃場からの自家採取を行った。  
稲の分解調査を実施し、指標との比較検討を行った。  
種籾の温湯浸法機の導入により利用がなされた。  
予備苗の育苗が組合員の協力でなされ活用された。

### 2 連作障害を防ぎ農産物の安定生産を行う。

有機圃場の田畑輪換（稲 枝豆）の取組がされたが、栽培技術や土壌条件等に差があり、安定生産に向けた課題の整理が必要と思う。  
（枝豆 稲）の輪作では、紙マルチ・カモの放飼が行われた。紙マルチにおいては、紙の密着度に難点はあるが収量は概ね安定する。カモ放飼においては、初期雑草の対策が必要である

### 3 作物別収量目標の設定をする。

作物により品種差・栽培方法差で設定の難しい部会もあり、計画数量のみ提示の部会もあった。  
栽培技術の共有に向けた栽培暦の作成については各部会の対応とし、作成は行わなかった。

### 4 土壌調査を実施し、適正な施肥設計に心掛ける。

普及センターへ依頼し、結果が出たらこれまでの調査結果と比較し検討する。

### 5 有機資材の情報提供をする。

有機 JAS 会議・生産履歴監査委員会の調査等により『有機資材リスト』『有機土壌使用資材リスト』を配布した。  
共同購入の資材説明会を行い、新しい有機資材の説明を受けた

### 6 加工品の品質管理・衛生管理を徹底する。

自社製品の細菌自主検査を継続、傾向観察すると共に、床の一部張り替え、長靴殺菌マットの導入、壁際隙間の目張りなど環境的衛生管理を施した。  
使用器材や作業時に於けるアルコール消毒の周知徹底を図った（餅繁忙期）。夏場における虫対策として補虫灯の夜間消灯、昼間点灯を日々実施した。

2009年3月13日